

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100812		
法人名	株式会社 ゆずり葉宮の森		
事業所名	グループホーム ゆずり葉宮の森(1階)		
所在地	札幌市中央区宮の森2条5丁目2番27号		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_U22\\_kani=true&JigyosyoCd=0170100812-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_U22_kani=true&JigyosyoCd=0170100812-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和6年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接している宮の森保育園と行事を一緒に行う以外にも日常的な交流があり、子供達と接する機会が多く設けられています。また、夏には納涼祭を開催し、地域の方々をお招きすることで交流を図る場にもなっています。ホームの付近には公園が点在しており、北海道神宮や円山公園があります。その他にも個別対応として中央市場への外食やショッピングへ出かける等外出に力を入れています。お花見や敬老祭等の季節の行事も多く企画されており、各ユニット同士の交流も盛んに行われています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は最寄りの地下鉄駅から徒歩10分弱、バス停からは至近距離にある住宅街に位置し、周辺は公園やスーパー、銀行等があり利便性に優れています。都心に居ながら敷地内には桜や栗の木、山菜が群生しており、自然の息吹が感じられる環境にあります。1階のユニットでは藪のとうを天婦羅にし、2か所のユニットに差し入れをしています。また、茹でた落を利用者が皮をむき、金平や味噌汁にして旬の山菜を味わっています。ユニットによっては、玄関前で焼肉を楽しんだり、どら焼きや手打ちうどんを作るなど、生活リハビリへの支援が行われています。天気の良い日は、散歩やベンチで日向ぼっこ、車から降りないドライブなどに出かけ、公園での町内会の祭りには久しぶりに利用者と職員が見物に訪れるなど、程よい刺激が得られています。代表者始め3人の管理者を支柱とし、全職員が利用者を主体とした支援になるよう努めています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果		項目		取組の成果	
		↓該当するものに○印				↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にしている	ユニット内に理念を掲示しており、実践につながるよう努力をしている。	法人理念に加え「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」をキーワードとした事業所理念を掲げています。入職時はもとより、管理者は都度、理念はケアの道標であることを説明しており、職員はその意を理解して実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加している。	コロナ禍により地域交流は自粛下にありましたが、町内会主催の夏祭りが公園で行われ、利用者は久しぶりの賑わいを味わっています。地域の資源物回収に協力し、介護相談にも快く耳を傾けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	宮の森保育園主催の夏祭り等の行事に参加したり、ホームで納涼祭を開催した際に地域の方々にも参加して頂くことで、認知症に対する理解を深めて頂くよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により地域の方々の参加を見合わせ、話し合いを行っている。	現在、運営推進会議は対面で行われています。利用者状況や行事内容、事故状況・原因・改善策等を議事録にまとめ、推進委員や家族に届けています。介護に対して労いの言葉があり、職員のモチベーションを上げています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連携を取るよう努めている。	代表者や管理者が案件を分担して行政の各部署の担当者と関わりを持ち、円滑な運営に繋がっています。担当者と直接やり取りをし、また、電話やメールでそれぞれの情報や意見交換を行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し定期的な話し合いを行っている。また積極的に研修へ参加し、そこで学んだものをケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止に向けて指針を整備し、年6回の適正化委員会と年2回、研修会を計画し、順次開催しています。管理者は、職員が発した言葉のトーンなどが気になるときは、すぐに注意を促すなど正しく理解できるよう努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会を開催し、研修参加者による発表や内部研修等で学び、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に研修に参加することで学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理箱を設置している。	家族には定期的に「ゆずり葉だより」を発行し、代表者による挨拶に加え、新しく入居した利用者の紹介や誕生日を迎えた利用者の報告、さらに日々の様子を写真で伝えています。面会についての問い合わせには、現況を説明しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行い、意見提案を聞く機会を設けている。	管理者は、職員の意見や提案は業務上で聞いていますが、代表者や管理者による必要時の個人面談でも聞くことができ、業務の改善や運営の向上に生かしています。多くは、利用者が安心して暮らせるための内容となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制の調整など、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修などのグループワーク等行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実務者研修に参加し交流している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中での楽しみを共有できるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	互いに情報を共有できるよう、常にコミュニケーションをとっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	徐々にコロナ禍以前の生活に戻りつつあり、居室での面会が可能になっています。また、家族の支援で自宅に戻り誕生日祝いを受けている利用者や、外泊ができた方がいます。年賀状や電話の取り次ぎ、アルバムを開いて昔の話を聞き、思い出を共有するなど、馴染みの関係を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでもフォローできる体制を整えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向の把握に努め、本人本位の検討を行っている。	利用者との意思の疎通が困難なときもありますが、家族からの情報や関わりから利用者のその時々状態把握に努め、その人らしさを尊重するケアに取り組んでいます。内容によっては、ケアプランに反映して思いに応じています。終末期に対する意向の聞き取りも行い、記録に残しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のカンファレンスで、利用者一人ひとりの心身の状況を見極めていきます。定期的な見直し時や状態変化時には、利用者や家族の意向に配慮した支援目標を立案して、安心して生活ができる環境を整えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた記録を行っており、訴えを詳細に記録し、情報の共有や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響により、保育園の行事参加や外出を見合わせている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	支援を行っている。	受診する医療機関は利用者の意向を受け入れていますが、利用者は訪問診療を選択しています。他科受診は基本的に家族支援ですが、緊急時は職員が対応しています。常勤の看護師による健康管理も行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師が常勤しており、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族を含めた主治医との面談、話し合いを行い、本人、ご家族との方針の共有、支援に努めている。	終末期の経験がない職員用にフローチャートやマニュアルを整備しています。重篤時は利用者の意向を踏まえ、医療従事者や家族と方針を共有して、職員自身が最期の支援ができて良かったと思える取り組みが行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修にて心肺蘇生法やADEの使用方法的訓練を行い、各々身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通して全職員が対応できるよう努めている。	年2回の避難訓練を計画しています。災害備蓄品も随時用意し、災害時には近くの住民に協力を要請しています。作成した事業継続計画を踏まえて、今後の訓練を行うこととしています。	未実施の避難訓練の実行と災害時での入浴や排泄時などケア場面での対応、一時避難場所から屋内の避難場所の確認と家族にその場所を周知等の取組に期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシーの確保に努めている。	利用者によっては言葉かけが必要なときや一人でいたいなど様々ですが、適切な対応に努めています。利用者のことを伝達するときはイニシャルや居室番号を使い、個人関連の書類も職員室で管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まり、都合を優先させてしまうことがあるが、ご本人の希望にそって生活できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んで頂いたり、その時に応じて化粧をしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しんで食事をして頂けるよう、援助を行っている。	献立と食材は業者から届きますが、職員は利用者好みの味付けをし、また、利用者の好物をテイクアウトすることもあります。裏庭で採れた山菜を天婦羅にしたり、茹でた落を利用者が皮をむき金平や味噌汁にしています。時には利用者主体でどら焼き、手打ちうどん等を作り、また、外で焼肉を楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表を使用し、1日を通した水分量、食事摂取量を把握し、支援を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人に応じたケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、排泄間隔や習慣を把握し、支援を行っている。	利用者の排泄状況を職員間で共有し、自立排泄への見守り、羞恥心に配慮した声かけや誘導を行い、トイレでの排泄支援に努めています。良眠確保のためや失敗が増え利用者が負担に感じる場合は、対応策を検討しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排便間隔を把握し、積極的な乳製品の提供等、個々に応じた取り組みを行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に浴った支援ができるよう努めている。	入浴は、午前中に週2回を基本としています。温めた浴室で足湯にシャワー浴もありますが、殆どの利用者は湯船の中で寛いでいます。職員の努力により入浴拒否はなく、入浴時には子供の頃の話や初めて聞く話が出ています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	温度版を使用し、スタッフ一人一人が服薬に関して理解が深まるよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に見合った支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス第5類へ移行してからはホーム周辺の散歩を行うことができている。また、ご家族との外出や外泊を少しずつ行えるようになってきている。	天気の良い日は、介護度にかかわらず日常的に周辺の散歩や玄関前のベンチで日向ぼっこをしています。公園で開催の町内会行事への参加や車から降りないドライブで気分転換ができるよう努めています。家族の外出支援も得られています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者様にのみ支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮、工夫をし居心地よく過ごせるようにしている。	心地良い共用空間になるよう、職員は、換気、温湿度、臭気などに配慮しています。動線確保のため、フロアの絨毯を外してスペースを多くしています。壁には利用者が制作したおひな様や階段にも行事の写真が飾られており、ほのぼのとした雰囲気を出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に仕切り等がないため、独りになることは難しいが、入居者が思い思いに過ごせるよう支援を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持参して頂く等して、居心地よく過ごせるよう工夫をしている	居室にはクローゼットが備えられ、利用者は馴染みの物を持ち込んでいます。テレビや仏壇、アルバムや手芸セット、自作の絵画などが身の回りにあり、安心感ある居場所となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう支援をしている。		